

スペースは健在だったが、設営用のスコップが埋もれていて苦労した。

00―五竜小屋 8：10―25―五竜岳  
9：35―10：45―五竜小屋 11：20  
―BC 12：30 (泊)

と猛烈な風が顔を打つ。昨年のアタックの時はこの風に恐れをなした。今回は先発隊が登ってきた

トの中で紅茶を飲ませてもらう。昨年末の敗北感をやっと晴らせた飲びが、湯気の中でジワッと湧い

てきた。ツェルトを撤収し、再び8人パーティーとなって白岳―西遠見山―BCと下る。BCでラーメンを食べたり、ウイスキーを飲んだりくつろぐ。中途半端な時間に関食をしまい「これでは晩飯がまずい。ちょっと運動しよう！」と超若者の新井、妹尾の兩名をテントの外へ引っ張り出す。30cm位の斜面の登下降を、腰まで埋まるラッセルトレニング。まだまだ若い者には負けんと若干優越感を覚える。

約束を守らず、自分達の目的が果たされれば、サツサツと降りてくる。そして正月をのんびり家庭で過ごす。そういう生活感、登山感に対する感情的な憤りだった。しかし、合宿は成功裡に終わり、そこには先発隊の大きな貢献があった。

冬山合宿への参加の道を確認したことに、私は、もっと敬意を表し、困難を共有する意義を持つべきであった。  
(84年12月発行機関誌「くろゆり」第11号に収録)

所に集合。ほぼ全員揃ったが、川井がこない。家に電話するとくに出たとのこと。心配になり捜しに行くと田町付近で道を間違え落輪をしていた。彼女はショックで山は止めたいというのが、励まして同行をうながす。

### 1月2日 (天候不明)

へタイム 起床4：00 出発8：55  
テレキャビン11：15 やまや  
12：00―13：30―三島 21：40  
テントを撤収し、全てのゴミもパッキングすると、来た時より重たいと皆が言う。帰りには民宿「やまや」で野菜菜とビールで乾杯！塩崎は実家へ寄るといので、飯田線辰野駅でおろす。  
(文中敬称略)

登山前の民宿「やまや」での私の「怒り」は多分に心情的なものだった。それは長期休暇のある恵まれた者が、勝手に先発隊として登って

### 第11期冬山合宿

# 白馬岳

2933m

後藤 隆徳

●梅池―白馬大池―小蓮華岳―白馬岳―梅池

▽83年12月30日―84年1月2日  
▽C L 後藤隆徳(36) S L 杉澤康

秀(34) 写真毛利哲也(50) 医療  
露木廣幸(34) 記録原芳文(30)

記録小川正夫(25) 氣象武井伸二  
(25) 装備塩崎孝夫(29) 会計杉

澤好子(34) 医療川口諒子(47)  
食糧川井妙子(26) 会計青木照恵  
(22)

【とりくみ】

後立山連峰冬山最後の取組み。標高の割には登りやすい山なので、初、中級者を中心にパーティー編成して全員登頂をめざした。

12月30日 (晴)

へタイム 三島7：00―山じゅう山荘15：00 (泊)

いつでもそうだが山に行く時は切ない感じ。特に、まだ3才にもならない正登と別れるのはつらかった。女房に送ってもらい事務

全員揃ったところで、改めて装備を点検すると、塩崎の借りてきたワゴン車のチェーンがなかった。途中で調達することにして出発。結局中央高速のスタンドで購入したが、8千円だった。

天気は良く暖かく快調に進み、梅池高原「山じゅう荘」に到着。山荘は清潔な感じの大きな宿で、目の前にリフトが動いている。風呂に入りのおんべりし、夜は大いに飲む。小川、原の豪傑は外に遊びに行ったようだ。

12月31日 (晴のち曇)

へタイム 起床6：00―ケーブル  
駅8：10―山頂8：40―乗鞍岳―  
白馬大池BC 14：20 (泊)

昨晩は暑くて寝れなかった。どうもこういう暖房はなじまない。宿で朝食をとりケーブル駅に向かう。ケーブルは仲々快適なヤツで、1度乗りかえて山頂駅に着く。ここで武井と合流する。武井は休暇